



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ドリーンプレミアム横浜 新築工事	階数	地上9F
建設地	神奈川県横浜市中区山下町132-1 他36筆	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	333 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,917,080 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,ホテル,工場,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年3月31日 予定	評価の実施日	2019/12/25
敷地面積	2,159 m ²	作成者	西川学
建築面積	1,240 m ²	確認日	2020/1/16
延床面積	8,999 m ²	確認者	西川学



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	耐用年数高い材料を使用し、ライフサイクルコストを低減している。また植栽を地上に積極的にしている。	
その他	特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
遮音性能: T-2以上。ホテル共用部: 2.5% [昼光率]、ホテル客室: 1.25% [昼光率]。そして、客室: 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。F を使用している。	客室: 天井高2.5m。耐用年数が高い内装仕上材と給排水配管材を使用している。	外構緑化指数 27.40%。そして、空地率: 42.56%。また、緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率: 11.28%
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外皮性能が高い。	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。ODP=0かつGWPが低い発泡剤(GWP=1)を用いた断熱材を使用している。	ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物(参照値)に対して87%。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(~)を示し記述してください。 建物名称 (仮称)ドーマインプレミアム横浜新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 3**

省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **15** %削減



一次エネルギー消費量基準	適合
外皮基準	対象外

受付日 2020年1月20日

エネルギー対策 (建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用 設備システムの高効率化 効率的運用)

BPI = 0.86

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

室内環境対策 (温熱環境対策 光環境 空気質環境)

ホテル共用部:2.5% ≤ [昼光率] □ホテル客室:1.25% ≤ [昼光率]。□

F を使用している。

機能性対策 (機能性 知的生産性向上の取組)

室外環境(敷地内)対策 (敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 3**

耐用性・信頼性 (耐震・免震 部品・部材の耐用年数向上 信頼性)

RC造で耐用年数が65年。

耐用年数が高い内装仕上材を使用している。

耐用年数が高い給排水配管材を使用している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 2**

室外環境(敷地内)対策 (生物環境 まちなみ・景観 地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.3
(仮称)ドームインプレミアム横浜 新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.3

スコアシート	実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
0	建築物の環境品質					-		-	2.6
Q1	室内環境					0.40			3.2
1	音環境				3.7	0.15	3.2	1.00	3.4
1.1	騒音				3.0	0.40	3.0	0.40	-
1.2	遮音				4.9	0.40	3.6	0.40	-
1.2.1	開口部遮音性能				5.0	0.99	5.0	0.30	-
1.2.2	界壁遮音性能				3.0	0.01	3.0	0.30	-
1.2.3	界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
1.2.4	界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
1.3	吸音				3.0	0.20	3.0	0.20	-
2	温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1	室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	-
2.1.1	室温	快適・働きやすさ	温熱環境		3.0	0.38	3.0	0.57	-
2.1.2	外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	温熱環境 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	-
2.1.3	ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	温熱環境		3.0	0.37	-	-	-
2.2	湿度制御	快適・働きやすさ	温熱環境		3.0	0.20	3.0	0.20	-
2.3	空調方式	快適・働きやすさ	温熱環境		3.0	0.30	3.0	0.30	-
3	光・視環境				2.6	0.25	3.3	1.00	3.0
3.1	昼光利用				1.8	0.31	4.2	0.30	-
3.1.1	昼光率	快適・働きやすさ	光環境		1.0	0.57	5.0	0.60	-
3.1.2	方位別開口	快適・働きやすさ	光環境		-	-	-	-	-
3.1.3	昼光利用設備	快適・働きやすさ	光環境		3.0	0.43	3.0	0.40	-
3.2	グレア対策				3.0	0.29	3.0	0.30	-
3.2.1	昼光制御	快適・働きやすさ	光環境		3.0	1.00	3.0	1.00	-
3.3	照度	快適・働きやすさ	光環境		3.0	0.14	3.0	0.15	-
3.4	照明制御	快適・働きやすさ	光環境		3.0	0.26	3.0	0.25	-
4	空気質環境				3.5	0.25	3.6	1.00	3.5
4.1	発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63	-
4.1.1	化学汚染物質	快適・働きやすさ	空気質環境		4.0	1.00	4.0	1.00	-
4.2	換気				3.0	0.30	3.0	0.38	-
4.2.1	換気量	快適・働きやすさ	空気質環境		3.0	0.50	3.0	0.33	-
4.2.2	自然換気性能	快適・働きやすさ	空気質環境		-	-	3.0	0.33	-
4.2.3	取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	空気質環境		3.0	0.50	3.0	0.33	-
4.3	運用管理				3.0	0.20	-	-	-
4.3.1	CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	空気質環境		3.0	0.03	-	-	-
4.3.2	喫煙の制御	快適・働きやすさ	空気質環境		3.0	0.97	-	-	-
Q2	サービス性能				-	0.30	-	-	2.6
1	機能性				2.4	0.40	2.2	1.00	2.3
1.1	機能性・使いやすさ				2.9	0.40	2.0	0.60	-
1.1.1	広さ・収納性	快適・働きやすさ	機能性		-	-	3.0	0.50	-
1.1.2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	機能性		1.0	0.01	1.0	0.50	-
1.1.3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ	機能性		3.0	0.99	-	-	-
1.2	心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40	-
1.2.1	広さ感・景観	快適・働きやすさ	機能性		3.0	0.02	4.0	0.50	-
1.2.2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	機能性		3.0	0.02	-	-	-
1.2.3	内装計画	快適・働きやすさ	機能性		1.0	0.96	1.0	0.50	-
1.3	維持管理				3.0	0.30	-	-	-
1.3.1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	機能性		3.0	0.50	-	-	-
1.3.2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	機能性		3.0	0.50	-	-	-
2	耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1	耐震・免震				3.0	0.50	-	-	-
2.1.1	耐震性	防災	耐震・免震		3.0	0.80	-	-	-
2.1.2	免震・制振性能	防災	耐震・免震		3.0	0.20	-	-	-
2.2	部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-	-
2.2.1	躯体材料の耐用年数	防災	部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
2.2.2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	部品・部材の耐用年数向上		2.0	0.20	-	-	-
2.2.3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	部品・部材の耐用年数向上		5.0	0.10	-	-	-
2.2.4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.10	-	-	-
2.2.5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	部品・部材の耐用年数向上		5.0	0.20	-	-	-
2.2.6	主要設備機器の更新必要間隔	防災	部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
2.4	信頼性				3.0	0.20	-	-	-
2.4.1	空調・換気設備	防災	信頼性		3.0	0.20	-	-	-
2.4.2	給排水・衛生設備	防災	信頼性		3.0	0.20	-	-	-
2.4.3	電気設備	防災	信頼性		3.0	0.20	-	-	-
2.4.4	機械・配管支持方法	防災	信頼性		3.0	0.20	-	-	-
2.4.5	通信・情報設備	防災	信頼性		3.0	0.20	-	-	-
3	対応性・更新性				3.0	0.30	2.4	1.00	2.6
3.1	空間のゆとり				4.2	0.02	1.8	0.50	-
3.1.1	階高のゆとり				5.0	0.60	1.0	0.60	-
3.1.2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0	0.40	-
3.2	荷重のゆとり				3.0	0.02	3.0	0.50	-
3.3	設備の更新性				3.0	0.96	-	-	-
3.3.1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3.3.2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3.3.3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	-
3.3.4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	-
3.3.5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3.3.6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	-

CASBEE 横浜 | 評価結果 | 31-128



CASBEE横浜2017年版v.1.3
(仮称)ドームインプレミアム横浜 新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.3

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	1.8	
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.40	-	-	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				1.5	0.30	-	-	-	1.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	地域性への配慮	1.0	0.50	-	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.0	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	-	3.0	
3 設備システムの効率化		省エネルギー性能	設備システムの効率化	2.7	0.50	-	-	-	2.7	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	効率的運用	-	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	効率的運用	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	2.9	
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	-	3.0	
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.60	-	-	-	2.7	
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20	-	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				4.0	0.20	-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	-	3.7	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-	-	-	
	1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)			5.0	0.50	-	-	-	-	
	3 冷媒			3.0	0.50	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	2.9	
1 地球温暖化への配慮				3.5	0.33	-	-	-	3.5	
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	-	2.5	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	-	
	1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-	
	3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	-	2.7	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-	-	
	1 騒音			3.0	1.00	-	-	-	-	
	2 振動			-	-	-	-	-	-	
	3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-	-	
	1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-	-	
	2 砂塵の抑制			2.0	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20	-	-	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70	-	-	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-	
上記以外の重点項目										
<事務用途>										
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	知的生産性向上への取組	-	-	-	-	-	-	
<住宅用途>										
健康と安心										
1 化学汚染物質の対策		健康・安心	健康対策	-	-	-	-	-	-	
2 適切な換気計画		健康・安心	健康対策	-	-	-	-	-	-	
3 結露・カビ対策		健康・安心	健康対策	-	-	-	-	-	-	
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	防犯対策	-	-	-	-	-	-	